

31日	読売新聞)	「読書週間	“本離れ”
傾向	変わらず	：本社世論調査」	(2005年10月
28日	読売新聞)	「読書週間	働き盛りの
本離れ	20代には	「回帰」	の兆し／読売新
聞社世論調査」	(2007年10月28日	読売新	
聞)	∴∴	活字離れが真実である	ことを伝え
る見出しが並びます。			
収集した資料を読んでも			
くなくなったのは、わたしたち			
徒だけではなく、大人、それも			
本を読まなくなっている			
でも、どうしてみんな本を			
のでしょうか？			
でしようか？			
これについても、新聞の縮刷版と、			
ベースで調べてみました。			
「若い世代に活字離れ、携			
因？」	(2003年1月11日	読売新聞)	の見出
しや、「インターネットの			
億人を超え、日本でも約			

ている。その普及は、テレビやビデオなどの
 映像メディアとともに、活字離れを加速する
 要因とみられているからだ（2002年7月26
 日 読売新聞）と、原因が挙げられています。
 わたしは思うのです、携帯やインターネッ
 トってそんなにおもしろいのかと。
 「携帯でメールを送るのは文章を書く訓練」
 「インターネットの閲覧も、字を読んでいる
 のにかわりがない。だから活字離れにはなっ
 っていない」という意見を聞いたことがありま
 す。しかし、これらは詭弁に過ぎません。
 インターネットは匿名の社会です。ホーム
 ページやブログの文章、それに掲示板の書き
 込みが、どれだけ責任を持って書かれている
 文章か考えたことはありませんか？ 個人サイ
 トやブログ、そして掲示板の書き込み、どの
 の誰が書いたものか分からない文字が、あふ
 れています。
 内容の真偽も定かではない文章、いいえ、
 文章とは決して言えない単なる文字のつなが

りがあふれかえっているのです。
このような真偽が定かでないものをいくら
読んでも、知識として蓄えることはできません
ん。うそか本当は分からない文章を、まじめ
に読むことなどとうていできません。
それに対して本はどうでしょう。著者の名
前が表紙にはつきりと書かれています。これ
は言論に対して、著者の責任の表れです。
加えて編集者をはじめ、何人もの人たちが
原稿に誤りはないか、人を傷つける表現はな
いかをきちんと、チェックをされて、本屋さ
んに並びます。そのようなものだからこそ、
先生方が本を読むようにと推奨されるのです
本を読むことで、わたしたちは多くの知識
を得ています。知識になるには、内容が正し
くないとだめです。正しいことが書かれてい
る、その安心感に支えられて、わたしたちは
安心して本を読むことができます。
ブログや掲示板には悪意のある書き込みが
たくさんあります。わたしたちは勉強やスポ

ーツを通じて、知識や心を育まなければなら
ない時期です。その大切なときに、悪意に満
ちた書き込みを読むことが、役に立つのでし
ょうか？ それこそ、時間の無駄です。
ところ、ところが本は違います。先生や司書の先生
が「これはおもしろいよ」「この本はために
なるよ」というものを推薦してくださいます。
独りよがりの判断で、役に立つとかおもしろ
いとかの理由で見ているブログや掲示板と違
い、何百冊、何千冊の本を読んだ人生の先輩
たちから、「おもしろい」「役に立つ」「た
めになる」と、アドバイスを、身近に、そし
て、直接受けることができるのです。
活字離れは現実です。しかし、みんなが読
まないから自分も読まなくていいはというこ
とにはなりません。
本を読んで心を育てる、そして感動したし
たならば、その本を次の世代に伝えていく、
こういうやりとりこそが、本当の豊かな生活
につながるのだとわたしは確信しています。